

事故等に関する包括的公表（令和6年2月1日～令和6年3月31日報告分）

No.	発生年月	発生場所	種別	概要	再発防止策
10	R06.02	特定困難	骨折	<p>更衣を行った際、頸部左側から肩、上腕部に広範囲の皮下出血を確認、レントゲン撮影の結果、左上腕骨近位端骨折と診断されました。</p> <p>原因の特定は困難ですが、左半身麻痺がある方で、ケアの過程などで何らかの外力が加わったことによると考えられます。</p> <p>バストバンド固定による保存的治療で対応いたしました。</p>	<p>骨折の受傷歴があり、更衣や体位変換を行う際は、微小な外力によっても容易に骨折に至る危険性があることを改めて理解するとともに、麻痺のある左上肢が体幹の下敷きにならないよう、ケアに細心の注意を払うことを徹底いたしました。</p> <p>また、看護師、生活支援員はじめ、リハビリスタッフや医師など関係職種間での情報連携の一層の緊密化に努めてまいります。</p>
11	R06.01	居室	急変	<p>看護師が訪室した際、顔色・口唇色不良でぐったりされた状態の利用者様（短期入所利用2日目）を確認いたしました。（酸素飽和度の24時間管理は行っておりませんでした。）</p> <p>保護者の方に状況を報告し、お迎えの到着を待つ間、酸素投与等による回復措置を続けましたが、保護者の方の到着時には救急搬送が相応しい状態と判断され、救急車を要請いたしました。救急車の到着を待つ間も酸素飽和度は低下し、搬送時には酸素投与量も増えました。</p>	<p>利用日の直前や当日の情報収集結果のみならず、既往歴などから綿密なアセスメントを行い、酸素飽和度測定のあり方や痰吸引・訪室頻度などについて慎重に検討し、観察強化を図り、健康状態の急変をより早期に発見できるよう努めてまいります。</p> <p>利用者様個々に作成している「短期利用者情報シート」について、ご家族からの提供情報を任意に記述する方式を改め、確認項目を予め列挙し、個々に回答を記入する様式に変更することで、必要な情報を漏れなく把握できるよう徹底してまいります。</p>

事故等に関する包括的公表（令和6年2月1日～令和6年3月31日報告分）

No.	発生年月	発生場所	種 別	概 要	再発防止策
				<p>当該利用者様は、転院先の医療機関で回復されましたが、約4週間後に再び急変され入院のまま亡くなりました。なお、ほぼ毎月1回の頻度で短期入所をご利用いただいております。</p>	<p>短期入所の利用者様に体調変化が生じた場合、保護者の方に連絡し、かかりつけ医の指示のもとに対応を進めることを原則としておりますが、急変の場合など、搬送のタイミングや受診先の手配を状況に即してより迅速かつ適切に対応できるよう、病棟ごとの訓練を行ってまいります。</p>

※表中No.欄の数字は、年度内に発生した報告事案を「通番表記」したものです。(No.1～9 ご報告済み)